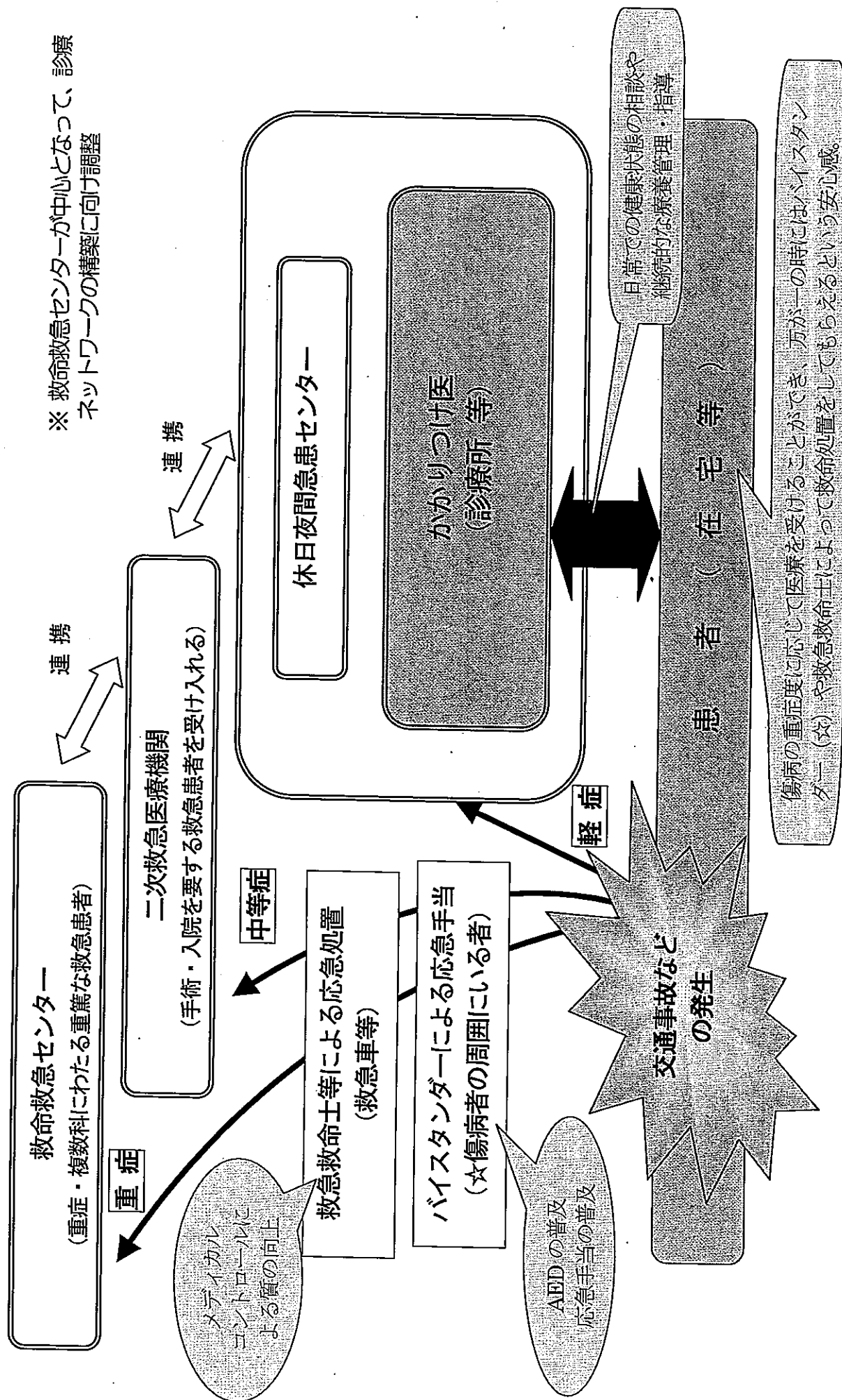


# 小児をやはじめた救急医療体制等の子供医療の推進について

- 【資料 2-1】救急医療関係資料
  - ▼救急医療体系図（一般・小児） (P. 1)
  - ▼日常医療圏の診療ネットワークのイメージ（「救急医療」の場合） (P. 2)
- 【資料 2-2】母子医療関係資料
  - ▼子ども・子育て支援医療基本構想 (P. 3～P. 18)
  - ▼日常医療圏の診療ネットワークのイメージ（「小児救急」の場合） (P. 19)
  - ▼小児救急電話相談事業実施予定状況等 (P. 20～P. 21)
  - ▼日常医療圏の診療ネットワークのイメージ（「周産期医療」の場合） (P. 22)



# 日常医療圏の診療ネットワークのイメージ（「救急医療」の場合）



# 子ども・子育て支援医療基本構想(イメージ)

21世紀の母子医療(小児医療と産科医療)のあるべき姿～どこでも安心して小児医療・周産期医療が受けられる体制の整備～

基本構想:どこでも、子どもの病気や出産の緊急時に適切に対応できる体制を整備し、妊娠・出産・育児の安心・安全を確保するとともに、子どもの健やかな育ちを支援する

- 1 「小児医療基本構想」(仮称)に基づく小児医療の再編成
- 2 「産科医療基本構想」(仮称)に基づく産科・周産期医療の再編成
- 3 基本構想を実現させるための人材等の医療資源の確保と効率的配備

小児医療(小児救急を含む)の体制整備

小児科・産科医師の確保・育成

産科医療(周産期の救急医療を含む)の体制整備

母子医療の診療報酬上の適切な評価

わが国の母子医療機関の機能分化と小児科・産科医師の確保・育成

## 1 小児医療提供体制の再編

- 小児救急医療を含む小児二次医療を安定的に提供できるよう医療体制の再構築
  - 軽度の入院と外来治療を行う小児科一次医療を担う身近な地域小児医療提供体制の整備
  - 医療機関の病診連携の推進と日常生活の中에서도相談できるかかりつけ医を持つ子どもの割合を100%にする
- 2 妊娠・出産の緊急時に適切に対応できる「周産期医療ネットワーク」の整備
  - 3 これらの体制整備を行うための「医療計画」のあり方及び「医師の供給」に関する基本方針の明確化

目指すべき社会の姿:

- ①世界最高水準の母子保健を維持・向上
- ②全国どこでも子どもの病気や出産に適切に対応できる

# 今後の小児医療の課題

## － 鴨下研究班で検討中－

1. <全体計画>  
小児科医療の将来構想の樹立  
小児救急医療体制の確立
2. <養成計画>  
魅力ある卒前教育カリキュラム  
奨学金制度
3. <研修体制>  
新臨床研修  
シジュント研修等  
指導体制の充実  
専門医・認定医制度の役割
4. <勤務環境>  
労働条件の改善  
医師バンク
5. <女性医師>  
育児支援  
職場復帰支援  
勤務形態の多様化
6. <インセンティブ>  
診療報酬  
若手向け研究費  
留学制度

# 今後の産科医療の課題

— 鴨下研究班で検討中 —

1. <全体計画>  
産科医療の将来構想の樹立
2. <養成計画>  
魅力ある卒前教育カリキュラム  
奨学金制度
3. <研修体制>  
新臨床研修  
レジデント研修等  
指導体制の充実  
専門医・認定医制度の役割
4. <勤務環境>  
労働条件の改善  
医師バンク
5. <女性医師>  
育児支援  
職場復帰支援  
勤務形態の多様化
6. <インセンティブ>  
診療報酬  
若手向け研究費  
留学制度
7. <医療訴訟>  
医事紛争処理システム  
無過失補償制度